

# 10. 若者の声プロジェクト

伊勢のまちづくりに若者の声を反映！新しい仕組みを一緒に創ろう！

## 若者の本当の声を調査！

本プロジェクトでは伊勢市役所様と協力し、若者の本音を聞き出すにはどのような環境、場所、人が必要であるか、インタビュー調査を通して行っています。アンケートの内容も1から作成し、回答者の方にアンケートの意図を汲み取りやすくするための工夫も行っています。

メンバー数：4名  
活動場所：伊勢市  
実施主体：伊勢市情報戦略局企画調整課  
担当教員：池山 敦（教育開発センター）  
活動年度：R06



### 月別活動

- 7月 キックオフミーティング
- 8月 ミーティング
- 9月 ミーティング
- 10月 ミーティング
- 11月 ミーティング
- 12月 アンケート調査実施
- 2月 ミーティング
- 3月 市長への提言書提出

### 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）

本活動においての成果としては、若者の意見を効果的に収集する方法を学ぶことができたこと、そしてその真意をどのように引き出していかを理解できた点が挙げられます。特に、若者の意見を正確に把握するためには、適切な手法やアプローチが重要であることを感じました。プロジェクトを進める中で、市役所職員の方々と何度も打ち合わせを行い、意見の収集方法や調査の進め方について詳細に議論しました。その中で、単にアンケートやヒアリングを行うだけでなく、質問の仕方や言葉の選び方が結果に大きく影響を与えることを学びました。例としてはアンケートを作成する際には、回答者が誤解を招くような表現を避けること、また、相手の考えを特定の方向へ誘導しないようにすることに細心の注意を払いました。選択肢を過度に限定することなく、自由に意見を述べてもらえる調査設計を意識しました。また、ヒアリング調査においては、インタビューが誘導的な質問をしないように注意し、調査対象者の率直な意見を引き出すことに努めました。具体的には、開かれた質問を意識的に使用し、「はい・いいえ」だけで終わるような質問を避けるよう工夫しました。これにより、対象者が自らの考えをより詳細に述べる機会を増やすことができました。これらの取り組みを通じて、調査の設計や運営において重要なポイントを学ぶことができ、今後の活動に活かせる貴重な経験となりました。

今後の課題としては、運営体制の強化と調査者の人数を増やすことがあげられます。これを行うことにより、新たな結果が得られる可能性もあると考えられます。この経験を踏まえ、今後はさらに効果的な手法を取り入れながら、若者の意見をより正確に捉え、政策や企画の立案に活かしていきたいと考えています。

### 活動を通して学んだこと

言葉の使い方によって伝わり方が変わることを実感し、的確に物事を伝える能力の重要性を改めて学ぶことができました。また、問題解決のための調査において、適切な段取りを組み、丁寧に進めることで、調査の手順を理解し、効率的に進める方法を身につけることができたと感じています。

### 実施主体からのコメント

伊勢市情報戦略局企画調整課  
ご担当者様

本CLL活動のテーマである「どのように若者から効果的に意見を聴取するか」を検討するにあたり、当事者である学生に考え、実践していただくことが有効なのではないかと考え、活動を開始しました。

若い感性や、学生生活での経験等を活かし、意見出しや調査にあたっていただきました。調査においては、学生同士だからこそ引き出すことができた回答もあったのではと感じました。

現在、3月末の伊勢市長への提言に向けて進行中です。活動はまだ途中ですが、これまでの企画立案や調査などのプロセスで学んだことがメンバーの今後に役立てばと思います。

### 担当教員より

教育開発センター 池山 敦

市政に若者の声を活かす、ということテーマとしたプロジェクトです。高齢社会の中で、もともとボリュームの小さい若者、さらに選挙においても年代別の投票率が低いこともあり、政策立案に若者の声が入っていないのではないか、という課題観から生まれたプロジェクトです。アンケートやインタビュー調査は我々研究者もよく使う手法ですが、本当の気持ちを引き出すのは本当に難しいものです。この活動を通じた経験は様々な職種についたときに活かせるのではないのでしょうか。

### 成果物 / 制作物

📢 こんな人におすすめ！

- ・市役所職員の方と関わりたい方
- ・地域の課題や問題に対して関心のある方
- ・企画、調査などに興味がある方。